

広報 ⊕  
No.736  
令和7年

# いいたて 6

[www.vill.iitate.fukushima.jp](http://www.vill.iitate.fukushima.jp)





一面に咲いた鮮やかな赤色のポピー。そよそよと風に揺られていました。

目次 CONTENTS

- 02 話題「大火山つつじの森」
- 04 特集1「長泥 新たな一歩」
- 10 学びの広場「いいたてっ子運動会」ほか
- 12 空から百景「相馬農業高等学校飯館校」
- 14 いいたて便り
- 16 話題のパレット
- 18 村からお知らせ
- 20 なりわいREPORT
- 21 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 22 いいたてPHOTOリレー ほか
- 23 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 24 ほっとNEWS ほか

📷 今月の表紙



5月23日、長泥地区で行われた2つの田植えに、住民の皆さんが駆け付けました。表紙は、今年から村が試験栽培を行う第四工区の水田です。住民の皆さんが一部で手植えを行い、「久しぶりだがうまいもんだな」「やっぱり気持ちがいいねえ」と笑顔を交わしていました。詳しくはP4からの特集をご覧ください。

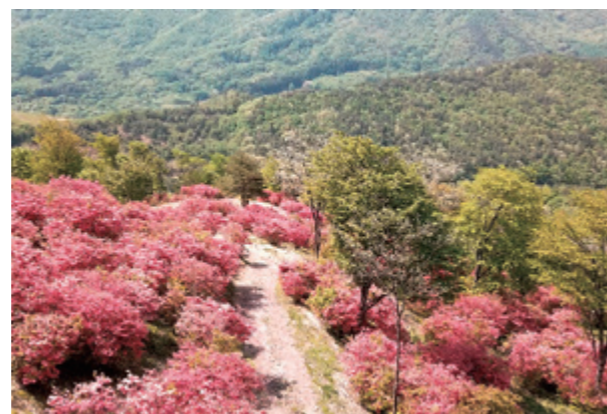
村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

「大火山つつじの森」躑躅色に染まる小径

新緑とヤマツツジが彩る5月の大火山

「大火山つつじの森」は、広大な斜面にヤマツツジが自生するこの景色を多くの人に楽しんでもらおうと、震災前から長年にわたり「飯館村議会OB会」の有志が手入れを続けていたエリアです。現在は、その活動を引き継ぐ形で村が整備を行っています。

令和2年度からは、福島県森林環境交付金を活用し、一連の森林整備を飯館村森林組合に委託。遊歩道に間伐材のウッドチップを敷き詰め看板を設置するなどして、一帯の整備を続けています。今年も5月中旬に、ヤマツツジが見頃を迎えました。※群生地に向かう山道の入口は旧白石小学校の西側です。途中に舗装されていない箇所がありますので、悪天候の後などは道路状況にご注意を。



より多くの方に親しまれる場所に



つつじの森入口の看板。看板の横と、さらに細い舗装道路を進んだ電波塔付近に駐車場があります。左の写真は遊歩道を整備した際に撮影したものです。遊歩道にウッドチップを敷き詰めています。



美しい新緑の中に、人の背丈以上に大きく育ったヤマツツジが点在。群生を縫うように整備された遊歩道を散策することができます。

# 長泥 新たな一歩

避難指示解除から2年  
緑の風薫る5月の長泥で



庄司さんは避難の期間に農業機械を処分していたことから、佐野一さん（前田・八和木）に作業を依頼。地区の皆さんも応援に駆け付けました。



避難指示解除後初の営農再開となる田植え。長泥地区の皆さんと関係者が手植えのセレモニーを行いました。

## 避難指示解除から2年 田んぼの復活に住民が集う

長泥地区は、村内で唯一、帰還困難区域に指定され、12年間にわたり避難指示が継続されました。その長く困難な避難生活においても、住民の皆さんは、折に触れて話し合い、交流し、外部の支援者ともつながりながら、地区の絆を保ち、解除の時を迎えました。

特定復興再生拠点区域と、区域外の「長泥曲田公園」で避難指示が解除されたのは令和5年の5月1日。庄司喜一さん（長

泥）は、その後2年にわたり、水稻の試験栽培と実証栽培に取り組み、この春いよいよ営農を再開することになりました。

5月23日、自宅近くの約25aの水田で、食用米「里山のつぶ」の田植えが行われました。避難先からも住民の皆さんが駆け付け、田植えや獣害対策の柵の設置などを手伝いました。

収穫した米は、全量全袋検査を行い、自家用米とする他、市場に出荷する予定です。



営農再開第1号  
庄司喜一さん（長泥）

interview

みんなが協力してくれてうれしい  
おいしい米がとれれば最高だ

昨年の実証栽培米は安全を確認した上で試食することが可能でしたので、地区のイベントで皆と味わいましたが、とてもおいしかったです。今年もおいしい米がとれれば最高です。営農再開はもう無理かも知れないと思った時期も

ありました。今日を迎えることができました。食べる米をつくれることは喜びです。みんなが協力してくれて本当にうれしい。誰かがやらなければ始まらないという気持ちで始めました。秋の実りを期待していますよ。

interview

長泥で初の営農再開  
この一歩を次につなげたい

作付け制限がされていた長泥地区において、初めての営農再開です。秋に収穫された米の一部は全量全袋検査を経て、市場にも流通します。

まず庄司さんが「やる」と言ってくれたことがうれしです。村としてはここをスタートに、地区の皆さんと協議をしながら、栽培面積の拡大を目指していきたいと思っています。



産業振興課  
松下貴雄 課長

## 長泥地区の避難指示解除

村内で唯一、帰還困難区域に指定された長泥地区は、最初の避難指示解除までに、約12年が経過しました。令和5年5月1日に、特定復興再生拠点区域（186ha）と区域外の「長泥曲田公園」（0.6ha）で解除。また、令和7年3月31日には、区域外に整備されたイタテバイオテック株式会社の用地（施設と農地合わせて約6.2ha）で追加の解除が行われました。これまでに解除された面積は、長泥地区約1,018haの約18%にあたる面積です。村は地区と共に全域の除染と解除を国に要望し復興の取り組みを継続しています。

## 第四工区では試験栽培を開始

環境省が環境再生事業により盛土と覆土で造成し、農地としての機能の試験も終了したことから引き渡しとなった第四工区で、村が水稻の試験栽培を開始しました。5月23日の田植えには、庄司さんの水田の田植えと同様に、佐野一さんと長泥行政区の皆さんが協力してくださいました（表紙もご覧ください）。





### ながどろひろば

6月から休館日が水曜日になりました。

今年4月にオープンした環境省の広報施設「花の里ながどろ 環境再生情報ひろば(愛称・ながどろひろば)」。環境省が長泥地区で実施している環境再生事業や身の回りの放射線に関する情報をさまざまな展示で伝えています。施設の開館時間は午前10時から午後4時で、休館日は水曜日と年末年始、入館は無料です。隣接するビニールハウスで花き栽培の様子も見学できます。



押し花のカードをつくるワークショップも体験できます。



長泥地区以外の村民の皆さんにも来ていただいています。花き栽培も含め7人の職員がローテーションで常駐しています。

ながどろひろば  
運営管理者 NTCインターナショナル株式会社  
堀 親和さん



自宅を直して避難先と行ったり来たり。長泥に泊まってもさびしくないかと言われますが、暮らしていた所ですからさびしくないです。長泥は避難中からみんな通って草刈りをしていて「帰還困難区域なのにどうしてこんなにきれいな」とよく聞かれたものです。これからも木や花を植えて多くの人に来てもらえるようにしたいですね。長泥で農業をやってみたいという人がいればいくらでも応援しますよ。かつてのような黄金色の水田風景が見たいですね。

避難先でも花卉を栽培。復興事業にも協力を続けています。

鳴原清三さん(長泥)



地区の皆さんの声を聞こう  
庄司さんの田植えに集まり、記念の手植えや獣害対策の柵づくりに協力していた皆さんに、お話を聞いてみました。



避難中も夫婦で通ってずっと庭の手入れをしていました。「長泥曲田公園」に自宅の土地を提供することは苦渋の決断でしたが、地区を何とかしなければという思いでした。青い屋根の小さなサイロは実際に使っていたものです。避難指示が解除されてから、アヤメを植えたり花壇をつくったりしましたが、残念ながらイノシシにやられてしまいました。それでも今も夫婦で通って、草刈りをしていますよ。

杉下定男さん(長泥)

地区の前進を願って長泥曲田公園に自宅の土地を提供。

### イイタテバイオテック株式会社



令和7年3月31日に用地の避難指示が解除され、長泥曲田地区の工場が本格稼働しています。

工場では、県内の汚泥を原料に、熱風で乾燥して堆肥原料を製造しています。また、燃料の一部に、近隣農地で栽培する資源作物ソルガムを使用し、農地の活用にも貢献します。

村内居住の方や避難先から通う方を含め、現在10人が雇用されています。

長泥が好きで、とにかく一生懸命やりました。長泥のことはみんなで決めたいと思って集まりましたね。今は母屋のあった所に井戸付きの小さなプレハブハウスを建てて、時々寝泊まりしています。老人会の名前を「友の会」として、友達感覚で60歳以下も一緒に活動できるようにしたいと考えています。震災以降にながりができた人達は、「酔い友会(良友さん)の名前にちなんで」でやって来ます。近々、長泥でパーベキューをする予定です。

震災前から令和2年まで行政区長を務めました。

鳴原良友さん(長泥)



長泥も一歩ずつ前に進んでいると実感し、うれしく思っています。

5月に開かれたマルシェは盛大に盛り上がりました。他にもいろいろな団体が地区を盛り上げようと長泥を訪れてくれていて、だんだんと我々地元も関わられるようになっていきたいと考えています。

また、復興復旧が進み、いよいよ自分達で手をかけられるエリアが増えてきて、農業を含め今後の具体的な進め方を、真剣に考え本音で話すべ

き時期に来ていると思っています。

村の家に泊まっている人や新築をした人がいて、ホタルや星空を見に来る人もいて、大学生からはキャンプをしたいという相談もあります。今までの見方や考え方に固執せず、視点を変えつつ考えていきたい。並大抵のことではありませんが、次のステージに乗るためには、それをやっていかなければと思っています。本当の意味での復興はこれからです。

interview

一歩ずつ前に進んでいることを実感  
次のステージを考えていきたい



長泥行政区長  
高橋正弘さん(長泥)

topic

行政区の記録写真を復元

長泥行政区は、保管していた写真のネガフィルムの記録を後世に残そうと、約2,000枚の写真を変換しました。行政区の集まりで地域の歩みを振り返るなどして活用していく予定です。



上段右)長泥夏祭り。同左)長泥小学校(校庭に「長小」の人文字。下段右)長泥青年祭。同左)旧コミュニティセンターでの老人会活動。



長泥を応援したい！みんなが想いを込めました

よってがっしえ長泥！ワクワクマルシェ

5月3日、長泥コミュニティセンターで、実行委員会主催のワクワクマルシェが開催されました。会場には飲食・雑貨・花などを販売する村内事業者のブースが並び、多くの人で賑わいました。また、福島大学大黒ゼミの学生が、村のかつての恒例行事をモチーフに、ユニークな種目で競い合う「村民体育大会」や、長泥の将来を語り合う「ホラ吹き大会」などを企画。参加した人はもちろん居合わせた人達が、当時を懐かしみ、故郷を語り合い、長泥での交流を心に刻んでいました。



故郷の味わい...学生企画の「村民食堂」も大人気！



みんな来てくれてありがとう！

手が覚えて  
いるね



村民体育大会の名物種目「縄もじり」

「ホラ吹き大会in長泥」  
将来の長泥は...胸アツの  
素敵なホラが続出

長泥に世界最強のサッカーチームができる！

花でいっぱい  
の長泥が一大  
観光地に！

高速道路をつくり  
に。みんなが  
長泥に来ます！



長泥コミセンに  
遊具を設置

この春、村は、国の事業を活用し、長泥コミュニティセンターの広場に、滑り台付きジャングルジムやスプリング遊具などの屋外遊具を設置しました。マルシェの日は好天に恵まれ、来場した子ども達が次々に利用し楽しんでいました。



前期課程の児童が村内をめぐる  
 いたてバスツアー

4月28日、いたて希望の里学園の前期課程の児童が、「いたてバスツアー」で村内をめぐる。ツアーは北回りコースと南回りコースの2コースに分かれて行われ、北回りは綿津見神社・山津見神社や「村民の森あいの沢」、道の駅などを、南回りは地域防災センター、長泥コミュニティーセンター、飯館みらい発電所などをめぐりました。児童は村内の特色ある場所を実際に訪れ、歴史や営みについて現地の皆さんから話を聞きました。このツアーでの学びを「いたて学」の学習に生かしていきます。



あぶくまもちの苗を植えました  
 がんばりました!田植え体験

5月22日、森永正男さん(前田・八和木)の水田で、いたて希望の里学園・前期課程の児童と、ままでの里のこども園・年長児による田植え体験が行われました。

今年は、飯館村でのみ生産されているもち米、「あぶくまもち」の苗を植えました。子ども達は、「あぶくまもち」についての説明を聞き、「『おいしくなあれ』と気持ちを込めて植えてほしい」という森永さんの言葉を胸に、力を合わせて田植えをがんばりました。園児の参加は今年が初めてで、オタマジャクシや虫を見つけるたびに大はしゃぎをしながら、小さな手で一生懸命、苗を植えていました。

ぬかるみに足をとられながらも田んぼには笑顔があふれていました。今年も村民ボランティアの皆さんが、田植えのコツをやさしく教えてくださいました。ご協力ありがとうございました。



学園NEWS!

いたて希望の里学園

いたてっ子運動会

5月18日、いたて希望の里学園で、全校生とままでの里のこども園の3歳以上児による『いたてっ子運動会』が開催されました。スローガンは「がんばっぺ!仲間と共に一致団結」。子ども達は学年の垣根なく、まさに一致団結し、全力で競技に臨んでいました。



飯館村唯一の高等学校として、村民に愛され、多くの人材を輩出し、村に賑わいをもたらしてきた福島県立相馬農業高等学校飯館校。震災により福島市に移転していましたが、令和5年に本校に統合され、惜しまれながら、74年の歴史に幕を下ろしました。丸い時計が印象的な校舎は、生徒達の笑い声が戻る時を待ち侘びて14年の月日を過ごしてきたのかも知れません。同校の敷地を含むエリアが産業団地として開発されることに伴い、校舎の解体が始まります。工事開始を前に、6月14日・15日に見学日が設けられています。※P21の記事もご覧ください。

## 山岸安博さん 県協議会から 交通教育専門員永年勤続表彰



長期にわたり交通教育専門員を務めていただいています。本当にありがとうございます。

山岸安博さん(白石)が、福島県交通教育専門員連絡協議会から永年勤続表彰を受けました。

交通教育専門員は、交通安全の知識や交通安全思想の普及を図り、街頭指導や交通安全教育活動を行う専門員で、各市町村が任命します。

山岸さんは15年にわたり、村の交通教育専門員を務め、地域の交通安全に対する取り組みを続けています。山岸さんは、5月20日に来庁し、中川副村長に表彰を報告。中川副村長は、山岸さんに、祝意と感謝を伝えました。

## 春日部市の「藤まつり」に出展 支援と交流に感謝を込めて

4月27日、埼玉県春日部市の「第44回春日部藤まつり」に出展し、特産品の販売を通して、春日部市の皆さんと交流しました。同まつりは春日部市民に愛される恒例行事で、模擬店の出店やパレードなどが行われています。村は震災後、同市から長期にわたる支援をいただき、当時村民が招待を受けていたこのイベントに、毎年の出展を続けています。

「菓子工房Cocitto」「まてい工房美彩恋人」の皆さんと一緒に、杉岡村長や役場職員もブースに立ち、市民の皆さんと交流して感謝を伝えました。



1 km以上の藤棚が続く「ふじ通り」が会場です。村のブースにも、多くの方が立ち寄りしました。

## 「昆虫の聖地」連絡協議会 令和7年度の総会を開催



県内からは12市町村と企業・団体が加盟し、「福島の豊かな自然を世界に発信しよう」と取り組んでいます。

「昆虫の聖地協議会」の総会が、5月21日、大阪府豊中市で開催され、杉岡村長が出席しました。

同協議会は一昨年に発足。福島県内を中心に3県の自治体と企業・団体が連携し、昆虫をきっかけに豊かな里山環境を守り、観光や誘客につなげていくと活動しています。総会では、加盟自治体の昆虫マップの作成が事業計画として承認され、続いて



専門家による特別講演も行われました。今年3月には協議会のホームページ(左のQRコード)が開設されています。

## 相馬看護専門学校の学生が 村内で実習を行いました

5月8日・12日・14日に、『相馬看護専門学校』の学生が村内で実習を行いました。同校は、飯館村と相馬市・南相馬市・新地町の2市1町1村で構成する「相馬地方広域市町村圏組合」が設立した公立の学校で、平成13年に開校しました。村内での実習は、「地域で暮らす人々の健康な生活を支える社会資源を知る」ことを目的に、令和5年度から実施されています。村を訪れた学生の皆さんは、村の特性や健康福祉課の業務について担当職員の説明を受け、訪問活動にも同行しました。



5月8日来村した皆さん。連携の大切さや一人ひとりに合わせた関わり方を実習で学んだと話していました。

## 相馬野馬追の式典で 山中郷が相馬流山踊りを披露



式典が行われた雲雀ヶ原祭事場にて、藩の紋所「九躍の星」を付けた陣笠・陣羽織で踊りを披露しました。

国の重要無形民俗文化財「相馬野馬追」の式典にて、5月25日、村民の踊り手が『相馬流山踊り』を披露しました。

『相馬流山踊り』は相馬中村藩の国歌・軍歌とも言われ、4部構成の踊り全てに、馬に関する動作が振り付けられています。また、本祭りでの披露は、旧相馬中村藩に属していた各地域(郷)が持ち回りで行っていて、今年は飯館村(旧山中郷)の出番。公募で集まった20人の踊り手が、2月から交流センター「ふれ愛館」で練習を重ね、本番に臨みました。

## もち米「あぶくまもち」 種子ほ場で今年初の田植え

もち米「あぶくまもち」の種子ほ場の田植えが、青田豊実さん(前田)のほ場と森永正男さん(前田・八和木)のほ場で行われました。

「あぶくまもち」は、県が高冷地向けに開発した品種で、村が栽培を復活させブランド化を目指していることから、毎年最初の田植えには、双方の職員が参加しています。今年は5月15日に青田さんのほ場で最初の田植えが行われ、関係者が「あぶくまもち」のさらなる発展を祈念し田植えを行いました。森永さんのほ場では、5月20日から田植えが始まりました。



5月15日、青田さんのほ場での田植え。



5月20日、森永さんのほ場での田植え。



細川美和さん  
相馬野馬追で御神旗を獲得

本祭りに出陣する勇姿

国の重要無形民俗文化財「相馬野馬追」で「20歳未満で未婚」という女性の出場条件が撤廃され、細川美和さん(白石出身)が20年ぶりの出場を果たしました。実家の細川牧場で馬に親しみ、小学1年生から19歳まで出場してきた細川さん。5月25日には約200人の騎馬武者が激しく争う神旗争奪戦に出場し、見事に御神旗を獲得。「言葉にできないくらいうれしい。(他界した)母にも見せたかった」と涙しました。

### 第4回「までいなマルシェ」開催!

5月24日、いいたて村の道の駅までい館生産者の会が主催する「までいなマルシェ」が、道の駅イベント広場で開催されました。今回で4回目となるこのマルシェでは、飯館村産の農産物や加工品に加え、ハンドメイド製品や石彫作品なども販売され、多くの来場者で賑わいました。生産者の会の出店者は、訪れた皆さんに自身の取り組みや飯館村の魅力を伝え、売り手と買い手それぞれが交流を楽しんでいる様子でした。



### 「はたらくクルマ」が道の駅に大集合!

5月3日、いいたて村の道の駅までい館にて、建設重機やトレーラー、消防車やパトカーなどを展示するイベント「はたらくクルマ大集合!」が開催されました。当日は、株式会社東栄、警察・消防機関の車両が約30台展示され、子どもから大人まで、たくさんの方が会場を訪れました。特に子ども達は、大迫力の重機を目の前に大興奮!展示車と記念撮影をしたり、運転席に乗り込んだりして「はたらくクルマ」を楽しんでいました。



### 行者ニンニクをおいしく召し上がれ

菅野隆幸さん(関根・松塚)の行者ニンニク畑が、一面緑に輝いていました。

行者ニンニクは山菜の一種で健康効果が高く、菅野さんは北海道から種や苗を取り寄せ、30年程前から栽培に取り組んできました。栽培方法を確立するまで何年もかかったそうですが、「難しいから面白いんだよ」と笑顔を見せました。菅野さんの家ではさまざまな調理法で行者ニンニクを味わっていて、「来年は加工にも着手してみたい」と話していました。



手前から奥まで、見事に育った行者ニンニクの緑が続きます。現在は村内と川俣町、2か所のほ場で栽培しています。



いいたて村の道の駅までい館では、直売所での販売に加えて、レストランメニューに期間限定で「行者ニンニクラーメン」が登場しました。昨年は醤油味のみでしたが、今年は味噌味も新登場。それぞれ効果的に行者ニンニクが使われていて、他にはない大変おいしいラーメンでした。旬が短いので、広報発行時には終了してしまいますが、まだ味わっていない方はぜひ来年をお楽しみに。※写真は味噌味です。

### 「飯館村食を考える会」が交流会

5月9日、『飯館村食を考える会』が、新たに5人の会員を迎え、令和7年度の総会と交流会を開きました。総会では、菅野一代会長(比曾)があいさつし、「村民の健康のために、バランスのよい食事と減塩を普及させていきましょう」と会員に呼びかけました。また、交流会では、会員の高倉君枝さん(前田)の郷土料理を味わい、和気あいあいと会食しました。会では一緒に活動する会員を随時募集しています。



### いいたてロックフェスティバル

5月4日、交流センター「ふれ愛館」のホールで、「いいたてロックフェスティバル」が開催されました。

このイベントは、村内で音楽スタジオとミュージックカフェを営む佐藤祐喜さん(上飯樋)が中心となり、実行委員会の主催で実施されている音楽イベントで、今回で3回目の開催です。当日は村内外で活躍する多くのミュージシャンが集まり、それぞれ特色のある音楽を演奏し、会場を盛り上げました。





相馬農業高等学校飯館校 74年間の歩み

歴史の散歩道

福島県立相馬農業高等学校飯館校は、令和5年9月15日に本校に統合され、74年にわたる歴史に幕を下ろしました。

同校は、昭和24年に「大館分校」として、村と村民が寄贈した草野地区の木造校舎で開校。飯館村が誕生した昭和31年に「飯館分校」、平成20年に「飯館校」と改称しました。平成23年には震災と原発事故による避難で福島市に移転。同24年からは同市内の仮設校舎で、飯館校サテライト校として足跡を刻みました。

同校の卒業生は、累計で約3400人を数えます。村内唯一の高等学校として優れた人材を輩出し、また、村内でのボランティア活動、農業文化祭の開催など、生徒のさまざまな活動が村に活力を与えてきました。平

成30年度の募集停止にあたり村立高校としての存続も検討されましたが、令和2年度からの休校期間を経て、令和5年に本校に統合されました。

同校の敷地を含むエリアが深谷産業団地として開発されることが決定したことを受けて、令和6年春、同窓会の有志が感謝祭を企画。桜が舞い散る校舎の前で神事を行い、関係者が想いを語り合いました。

村唯一の高等学校として村民に愛され、村と共に歩んだ74年間でした。

この6月中旬から校舎の解体が始まります。工事開始前にゆかりの皆さんに校舎を見ていただけるよう見学日が設けられました。6月14日・15日の午前10時から午後4時までです。懐かしい校舎をぜひ訪れてみてください。



令和6年春、解体が決まった校舎の前で同窓会有志が感謝祭を挙げる。母校への想いを語り合いました。



平成21年の創立60周年記念紅葉祭(文化祭)。左上は「質実剛健」「勤勉・勤労」の精神を象徴する校章。



交流センター「ふれ愛館」の玄関に、松原光年さん(小宮)のお花の写真が飾られています。また、交流センターの正面通路のお花は、「飯館くらしの会」の皆さんが定期的に手入れをしてくれています。交流センターにお越しの際は、季節のお花をぜひ楽しんでください。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

交流センターからのお知らせ

令和6年度の交流センター図書貸出冊数は、のべ1593冊でした。たくさんの方に本を読んでもいただき、ありがとうございます。これからも読書を通じて心を豊かにしていきます。

いいたて  
なりわい  
REPORT  
vol.11

お客様の想いに寄り添う“まていな村のまていな工務店”  
株式会社 英工務店



「株式会社英工務店」は、まていな村のまていな工務店を掲げる総合建築業の会社です。

創業者で代表取締役の高橋英明さん(上飯樋)が個人で会社を立ち上げたのは昭和45年のことです。高橋さんはその後建築、土木、施工管理などの資格を多数取得し、業務を充実させてきました。現在では、事務員を含め15人が勤務。木造から鉄骨造、鉄筋コンクリート造までさまざまな建物の設計・施工を行い、道路舗装や橋梁などの土木工事にも携わっています。建築物では、一般の住宅はもとより、企業の建物、



上) 江戸期の住宅を解体した村民から譲り受けた柱や梁で再建した建物。(令和4年) 下) 全村避難の期間に手がけた復興公営住宅飯野町団地。(平成26年)



村営住宅、公民館など、民間工事にも公共工事にも数多く携わり、それらの建物が村の景色にしっかりと馴染んでいます。

ベテランの職人さんも、若手の事務員さんも、「雰囲気や穏やかで働きやすい」と言います。「新入社員も募集していますが、資格はなくても大丈夫」と高橋さん。「働きながら仕事を覚えて、資格も取れますから」。

震災後は、復旧・復興関連の仕事が続きました。全村避難中の平成25年に焼失

した山津見神社の再建にあたっては、「宮司さんから頼まれ、覚悟を決め、勉強しながら取り組みました」と振り返ります。

高橋さんは、「建築はお客様の大切なものをつくらせてもらう仕事」と言います。「だからこそお客様の気持ちに応えたい。正直に生懸命、仕事をしています。喜んでもらえるよう、どんなに忙しくてもまていな仕事をする。その基本的な考え方は、社員にも伝わっていて、皆に一生懸命やっています」。

株式会社 英工務店  
飯館村白石字町70  
☎0244-42-0161



一人ひとりが自分の仕事にまていに取り組んでいます。

心温まるできごとの連続  
活気あふれたわくわくの5月

第32回

杉岡 誠 村長の  
**愛楽故郷味**  
あいらくふるさとみ



新緑が焔めき、大火山のツツジも見頃を迎えた飯館村の皐月。3日の「よつてがっしえ長泥！ウクワクマルシェ」は、爽やかな快晴に恵まれ、多くのお客様の中、お子様方が遊具で楽しむ姿に頬が緩みっぱなしでした。

道の駅までい館でも「はたらくクルマ大集合！」、ロイズの移動販売、和牛試食販売などが行われ、24日には「まていなマルシェ」も開催されました。

20日、24日、大阪・関西万博内の「福島復興展示」に出席し、「未来志向型農業」の映像上映と展示を行い、私も「昆虫の聖地協議会」に参画している自治体の皆様と一緒に「挨拶させていただきました」。

25日には、南相馬市の「相馬野馬追」で練習を重ねた村民の皆様が「相馬流山踊り」を見事に披露され、村から騎馬武者として、佐藤弘典さん、佐藤瑠満成さんがご出陣。神旗争奪戦での細川美和さんの感涙にむせぶ姿はニュースでも取り上げられました。また、YouTube中継でサクラスタースの峯岸ちひろさんがご出演されるなど、見どころも多く、感動の野馬追でした。

「ウクワクマルシェ」「いたてロックフェスティバル」「はたらくクルマ大集合！」「SLOW CAMP IITATE」など、『飯館村ふるさとの担い手わくわく事業補助金』を活用したイベントが増えていることを大変喜ばしく思います。「村でこれがない！」「という意欲を形にするために創設して5年目となる村独自の補助金です。これをお読みになつていただいている皆様も是非活用して、「わくわく」を実現していただけたら幸いです。

そして、29日、「ハシドラッグ飯館店」が開店いたしました。飯館村初のドラッグストアであり、医薬品・食品生活用品を取り扱う村民念願の店舗です。村民のニーズに寄り添い、地域に根差した運営をしていただけますこと感謝の至りです。ぜひ皆様も沢山お立ち寄りいただき、ご愛顧ください。

■ひとのうごき

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
高木 紫 くん	賢吾 さん 枝里 さん	大倉

HAPPY BIRTHDAY!

結婚おめでとう HAPPY WEDDING!

氏名	行政区
大内 和也さん 鈴木 美恵さん	佐須

おくやみ

氏名	年齢	行政区
清水 美和子さん	91	蕨平
佐藤 オイシ さん	101	伊丹沢
半沢 キクヨ さん	98	白石
花井 ハルノさん	99	伊丹沢

ひとのうごき	令和7年5月1日現在
人口	今月(前月比) 4月1日~30日までの人口動態
●男	2,257人(-6)
●女	2,189人(-6)
計	4,446人(-12)
世帯数	1,797戸(+5)
	転入 8人
	転出 15人
	出生 0人
	死亡 5人
	(住民基本台帳人口)

(4月21日から5月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

ご冥福をお祈り申し上げます

ハルミ塗装店が  
ボランティアで村施設の塗装

交流センター「ふれ愛館」で、塗装によるメンテナンスを行っていただきました。

村内企業のハルミ塗装株式会社(山口春己代表/上飯樋)が、交流センター「ふれ愛館」で、空調室外機の目隠し柵とベンチの座面を、ボランティアで塗装してくださいました。

いずれも外の環境にさらされている木製の設備で、経年劣化が著しく修繕を検討していたところでした。塗装によるメンテナンスで耐久性が向上し、また、見違えるようにきれいになりました。お忙しい中、さらには資材高騰の折、心温まるご支援をありがとうございました。



皆さんが広報委員！  
いいたて PHOTO リレー

月ごとのテーマで写真を募集、エピソードと共に紹介します。撮りたて写真でも懐かしい写真でもOKです。



提供者 市澤ナヲ子さん(深谷)

テーマは「出会い」



左の写真は旧大館村の時代、昭和22年に青年会が発足した時の記念写真です。ナヲ子さん(前列右端)は女性の副会長、後にご主人となる康喜さん(前列右から3人目)は男性の副会長。ナヲさんが退会する際に仲人さんがご主人との縁談を持って来たそうです。共に人生を歩んだ2人の「出会い」の1枚です。

もう1枚は平成3年、還暦の記念に旧



草野小学校の同級生と企画した「修学旅行」。昭和19年に同校を卒業したナヲさん達の小学生時代は戦時下で、修学旅行が行われず、約45年越しで実現した旅でした。小学校で出会った友人は、卒業後も支え合い交流を続けたかけがえのない仲間。大切な思い出の写真です。

7月号 6/17締切  
例えば…「田植え」「海・川・プール」「深緑」「アジサイ」をテーマに。

8月号 7/18締切  
例えば…「七夕」「ヒマワリ」「花火」「お祭り」をテーマに。

- 写真様式 データ、現物を問いません。 ■ 写真枚数 1掲載につき1~2枚程度。
- 提出方法 電話で写真の詳細をお聞きした後、相談させていただきます。
- 選考 応募多数の場合は選考します。 ■ 報償 1掲載につき1,500円。

問 村づくり推進課企画定住係(広報担当:巻野) ☎0244-42-1613

あいの沢でキャンプイベント 商工会青年部が開催

SLOW CAMP IITATE

5月24日・25日、村民の森あいの沢のキャンプ場を会場に、キャンプイベント「SLOW CAMP IITATE」が開催されました。このイベントは、飯館村商工会青年部が企画・開催したもので、「自然の中でゆったりと過ごすキャンプ体験」が

コンセプト。村内外から親子連れやソロキャンパーなどが集まり、キャンプと交流を楽しみました。会場では熱々の窯焼きピザや極久里珈琲のコーヒーが振る舞われた他、遊具や遊び道具が揃えられ、子ども達も雄大な自然の中で

ゆったり過ごしたり元気に走ったり、あいの沢でのキャンプを満喫していました。24日の夜はあいにくの雨模様でしたが、会場のフリーサイトの中央で焚き火が焚かれ、燃え上がる炎が、この日のために作られた木製のモニュメントを煌々と照らし、キャンプの夜を幻想的に彩っていました。



8/2 土

2025 ナイター駅伝

いいたてスポーツ公園 周回コース

指定の参加申込書を電子メールで提出  
参加申込書は村HPからダウンロード可 ▶  
✉ iispo@vill.iitate.fukushima.jp  
締切 6月30日 ※各40チーム (先着順)



- ★1部 1km x 4区間 午後5時スタート  
男子小学生の部/女子小学生の部/  
シニアの部 (60歳以上) 参加費1チーム6,000円
- ★2部 2km x 4区間 午後6時スタート  
男子中学生の部/女子中学生の部/  
フリーの部※男女混合可 参加費1チーム8,000円
- ★3部 3km x 4区間 午後7時スタート  
フリーの部※男女混合可 参加費1チーム10,000円

問 0244-42-0152 いいたてスポーツ公園

〈編集後記〉

飯館村の各所で田植えが行われています。

私はこの時期が大好きです。私が人生で一度は行ってみたい場所に「ウニ塩湖」という場所があります。広大な湖に空が反射する「天空の鏡」と称される場所です。飯館村の水を張った田んぼも、初夏の夕陽と茜の空を映す鏡のようで、美しい風景を見せてくれます。

皆さんの好きな村の風景は何ですか？ぜひ教えてください！(巻野)

5月のやさしい風に吹かれて長泥にたくさん笑顔が集いました。多くの人が長泥に想いを寄せるのは地元皆さんの心根に惹かれるからではないかしら。先人を敬い家族を愛し故郷を大切に想う生き方にきつとみんなが勇気をもっています。私も頑張ろう。(星)